

## 徳島クリエイターズマーケット

4月14日(土)～15日(日)

10時～17時 \*最終日は16時終了

### 会場●2階ギャラリー

主催●徳島クリエイターズマーケット事務局(川久保☎080・3162・2234)

■凄腕の「モノづくり人」達が集うマーケット。本町在住の川久保貴美子さんが呼びかけて実現。川久保さんは脱力系癒しキャラ《ししゃもネコ》を造形し、今や全国区にまで育て上げた超ユニークな作家です。ご注目ください。

## 日舞同好会 四季の舞発表会 ⑭

4月28日(日) 12時～

### 会場●3階多目的ホール

入場無料

出演●日舞同好会・四季の舞

主催●日舞同好会・四季の舞(藤田☎088・698・5548)

## 北島トラディショナル・ナイト・スペシャル ジョン・ジョン・フェスティバル・ライブ

5月2日(水) 19時～

### 会場●2階ハイビジョン・シアター

入場料●前売2000円(当日2500円)

出演●John John Festival(ジョン・ジョン・フェスティバル)

john(大久保真奈 フィドル、ヴォーカル)

annie(ギター、ヴォーカル)

トシバウロン(本岡トシ パウロン、パーカッション)

主催●北島トラディショナル・ナイト実行委員会(小西☎080・6386・2946)

■アイルランドやスコットランドの音楽を演奏する3人組が登場。美しいケルト文化圏の伝統音楽をご堪能下さい■フィドルのjohn(大久保真奈)は、2010年10月に坂上真清氏率いるハンドリオンのメンバーとして創世ホール登場歴あり。日本屈指の美少女フィドラーとして知られる(実際は一児の母!)■トシバウロンは、東京のトラッド・シーンの仕掛け人として有名な存在。



## 創世ホール名画観賞会 28 ふたりの桃源郷

5月19日(土) 2回上映

①10時半～ ②14時～

### 会場●3階多目的ホール

入場料●大学生・一般/前売1000円(当日1300円)、小・中・高当日のみ700円、シニア(60歳以上)当日のみ1000円

作品●「ふたりの桃源郷」(2016年、日本、97分) ナレ

ーション=吉岡秀隆 監督=佐々木聰 製作著作=山口放送

主催●創世ホール名画鑑賞会実行委員会(☎088・698・1100)

■心は山にありました。最後まで山で/最後までふたりで/ある夫婦と支える家族、25年を記録したドキュメンタリー映画■夫婦とは、家族とは? 生きることの原点がここにある■山口県のローカル放送局・山口放送が、ある夫婦と彼らを支える家族の姿を足掛け25年間にわたり追いかけたドキュメンタリー■誰もが自分や家族に重ねずにはいられない、感涙必至のドキュメント。2016年『キネマ旬報』文化映画ベストワン作品!■多数、ご参集下さい。

## 海野十三忌2018★湯浅篤志講演会 海野十三・森下雨村・小栗虫太郎

5月20日(日) 14時～16時

### 会場●2階ハイビジョン・シアター 無料

講師●湯浅篤志(『新青年』研究会)

主催●海野十三の会(小西☎080・6386・2946)

## 特報 坂田明グループ(梵人譚)演奏会決定

6月15日(金) 19時～

### 会場●3階多目的ホール

入場料●前売/大学生・一般3000円、小中高2000円(当日各500円増)

出演●坂田明グループ(梵人譚=ぼんじんたん/坂田明 [サクソ、クラリネット、ヴォイス]、ジョヴァンニ・ディ・ドメニコ [ピアノ]、山本達久 [ドラムス]、ジム・オルーク [ベース])

主催●坂田明グループ(梵人譚)◎ライヴ・イン北島実行委員会(☎088・698・1100)

■前売券4月中旬発売開始予定。詳細次号!





# 文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

■以下に掲載するのは、本年3月31日に北島町が刊行した『北島町史 続編』の後記部分です（小西が執筆）。アーカイブズの理念構築について言及しているほか、牧神社、平井呈一、土方巽、杉浦康平、東雅夫など「文化ジャーナル」おなじみの諸氏の名前が登場する異色の後記となっているので、資料的意味合いを込めて（アーカイブズの実践として）ここに再録します。

## アーカイブズの理念構築を 『北島町史 続編』編集後記

『北島町史続編』は、四三年ぶりに刊行される北島町の行政史（自治体史）です。前著『北島町史』が刊行されたのが昭和五〇年（一九七五）だったので、早く準備しなくては資料散逸してしまうのではないかと強い懸念があり、町では続編着手への議論が、ここ十年程ずっとありました。ただ、当時（四〇年前）編さんに携わった人間（経験者）は町職員の中には一人もいません。また、執筆体制をどうするか、事務局や進行役をどこが担うのか、などの問題もありました。慎重に検討・研究した結果、進行役は町教育委員会事務局（教育長部局）が担当することに決定。またその刊行までの形態として、資料を町側が揃えて、印刷製本を担う外部団体に執筆を委託するという方法があり、近年そのやり方で刊行する『行政史』が増えているということが判明しました。この調査研究段階では、高知県大豊町の町史編纂ご担当者から懇切な資料提供を受け、大変助かりました。その後、行政史や社史などの編さん経験のある業者数社からの提案を受け、町幹部による検討委員会で選考した結果ぎょうせい四国支社と契約を結ぶことになりました。契約は平成二七年七月でした。こうして、平成三〇年三月刊行をめざして、『北島町史続編』が船出しました。当時、私（小西）は町の教育次長という立場でした。資料収集の実務を小林由佳さんが担いました。編さん委員会は、藤本宏副町長を委員長に、天羽俊夫教育長を副委員長に据え、委員に町の課長職を当てて組織しました（正式スタートは、平成二八年一月）。

新しい国語辞書作りの現場を描いた『舟を編む』という日本映画の秀作があります（三浦しをん原作、石井裕也監督、二〇一三）。小林さんには、その映画のDVDを見ていただきました。映画では、多くの労苦の果てに辞書が完成するのですが、完成パーティの会場で辞書に追加すべき新語のメモを見せ合う編集者たちの姿が描かれていました。私は『町史続編』完成間際にはゲラ校正を延々と繰り返したり、完成後にむしように新たな項目を追加したくなる夢を見るのではないかと予想しました。その懸念は的中し、平成二九年秋から初冬にかけて、約六〇〇頁・四〇〇字詰め換算一三〇〇枚以上の文章（と付随する図版資料）の加筆訂正削除と新規項目追加の作業を延々行う内に、やはり夢でうなされることになりました。

本書は、基本的に昭和五〇年（一九七五）から平成二七年（二〇一五）までの四〇年間の町に関連する出来事を俯瞰し、一切合切の資料類（断簡零墨だんかんれいばく）を集め、記述するという方針で臨みました。長い歳月の出来事を網羅するので、資料には濃淡といいますが、分厚く豊富にあるものとそうでないものとがでてまい

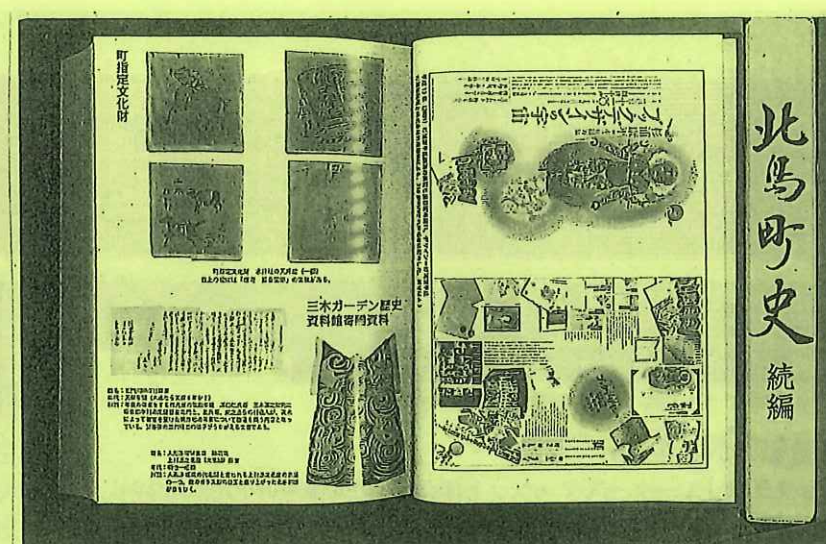
ります。それを補うために、多くの人に相談し意見を求め、肉付けをしました。その過程で元北島町総務課長の清水俊之さんから、貴重な情報と資料のご提供をいただき、作業が大いに前進したことを特筆しておきます。また町文化財保護審議会の江富久雄さんには殆ど無謀ともいえる短期間で学校や児童館などの写真撮影を多数お願いして、ひとかたならぬサポートを得ました。小林さんは、四〇年間以上の町の広報紙（「北島町報」→「きたじま町報」→「町報きたじま」、「北島タイムス」、「議会だより」、「町福祉広報」、「創世ホール通信」等）の媒体を一頁ずつスキャンし（全部で五〇〇枚以上）、全号のインデックス（記事索引）を作る作業をコツコツ続け、その土台づくりに貢献しました。このデータベースは、町の一つの知的財産といつてよいと思います。

殆どの文章執筆は、片向紀久子（かたこう・きくこ）さんによるものです。ぎょうせい所属のライターという立場で、『町史続編』の屋台骨を構築していただきました。それに関係部署（編さん委員）が、加筆・削除・訂正などの作業を施し、ブラッシュアップをしました。片向さんは、今は故郷の山口県にお住まいですが、かつては首都圏で大手出版社系列の物書きとして活躍された人です。お話しして驚いたのですが、我が国の怪奇幻想文学の分野を開拓した重要な版元・牧神社の菅原貴緒（孝雄）さんと親しい方でした。その関係で、英米文学翻訳の第一人者・平井呈一翁ともご面識があり、また澁澤龍彦さんの著作が若い頃からの愛読書だったということで、打ち合わせの間にかわす話題がとても充実していたことを特筆しておきたいと思います（本町とゆかりのある著名なアンソロジスト・東雅夫さんにそのことをお伝えすると羨ましがられました）。また、ぎょうせい四国支社の藤山昌士（とうやま・まさし）さんは、ともすれば息切れしそうな我々を叱咤激励する進行役として奮闘されました。

約三年間の取り組みで痛感したことは、アーカイブズ（公的文書の保存・活用・後世への伝達）の視線の重要性です。アーカイブズの重要性については、近年、博物館学や芸術文化運動の記録保存・研究（例えば慶應義塾大学の「土方巽アーカイヴ」、神戸芸術工科大の「杉浦康平ポスターアーカイヴ・プロジェクト」）などの視点から指摘されているところですが、ある事業や催しに関する印刷物や資料が保存されているか否かで、その描き方（記述）には格段の差が出てきます。一般に役所勤めの人間は起案文書（伺い、稟議書）の類を重要視しますが、むしろ町民向けのチラシや回覧文書などの印刷物が後に（決定的ともいえる）重要な資料となることがあります。そして、『北島町を知るための事典』のようなものがあればとても便利なのになあ、と思いました。自治体に人名事典や出来事を網羅した事典があれば、通史は非常に書きやすいわけです。今回、『北島町史続編』で我々が収集した資料は、「永久保存」と箱書きし役場地下に封印・保管しておこうと思います。二〇年後か三〇年後か分かりませんが、次に『町史』刊行に関わる方には、ぜひそれらを参考にさせていただきたく存じます。

終わりに、『北島町史続編』刊行にあたり、様々な形でご支援・ご協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（事務局／北島町立図書館・創世ホール嘱託職員 小西昌幸）



## 「文化ジャーナル」の今後についてのメモ●小西昌幸

■私は、2016年3月末に北島町役場を定年退職しました（最後の肩書は町教育次長）。その後は、週4日勤務の嘱託職員として2年間古巣の創世ホールで勤務しましたが、この3月末をもってそれも卒業し、4月からは年金生活者となります。これまで本当にありがとうございました。

■今後は、ボランティアとして、ホールの求めに応じる形で自主事業に関する企画面と広報宣伝面と運営面で各種サポートをする《創世ホール・サポーターズ・クラブ》（仮称）の立ち上げを慎重に模索したいと考えています。

■あらゆる公立の複合文化施設（図書館+ホール）に言えることですが、当館も1994年6月の開館当初と比較すると、正規職員の数が減少しており、図書館の日々のカウンター業務や施設管理で手いっぱい状況が続いています。

■そんな中でも自主事業の積み重ねや情報発信（様々な媒体への広報展開）が必要なのはいうまでもないことですが、現役担当者の負担を思うと「創世ホール通信」の継続も気がかりです。思案を重ねた結果、この裏面の「文化ジャーナル」面は当面小西がボランティアで過去の創世ホール講演会の採録を中心に据えた形でサポートしてはどうかということになりました。

■いうまでもなく、これもひとつのアーカイブズ（講演記録の文書化による文化資源の社会還元化・共有化）の実践です。年金生活者となり、人生の晩年に突入するゆえ、どうなるかまだ分かりませんが、元気な内は、町への恩返しのため続けてみたいと思います。  
（2018年03月31日脱稿 文責=小西昌幸）

## 『北島町史 続編』お詫びと訂正●町史続編編さん委員会

■『北島町史 続編』の記述で誤りがありました。ご迷惑をおかけした関係各位に深くお詫びし、下に正誤表を掲載します。この文章は、「町報きたじま」2018年5月号や、町ホームページにも掲載させていただく予定です。これからも、各種訂正があれば、同様に対応させていただきます。

### 『北島町史 続編』正誤表

【頁数】	【位置】	【誤】	【正】
296頁	5行目	社会福祉法人蒼生福祉会	⇒ 社会福祉法人徳島蒼生福祉会
296頁	6行目	社会福祉法人蒼生福祉会	⇒ 社会福祉法人徳島蒼生福祉会
296頁	8行目	社会福祉法人蒼生福祉会	⇒ 社会福祉法人徳島蒼生福祉会